

# WHAT

## アメリカ・パーデュー大学

生活科学部 人間生活学科  
発達臨床心理学講座 4年  
水谷 友紀

パーデュー大学に留学をさせて頂き、学んだことは数知れません。交換留学生が帰国後口を揃えて言うように、交換留学生として海外で過ごす一年間は、比類なく充実したものであり、人生において一番、人として大きくなる一年間であると思います。

さて、交換留学における学びですが、それはもちろん勉学に関係することばかりではありません。多くの交換留学生は自分の研究内容において学びたい、さらに深く研究をしたいことがあり、留学先の国の視点で研究内容を深めていくことを目標としていることかと思いますが、私の場合の学びはそれとは元から異なるものでした。私が学びたかったことは、アメリカ人の考え方や世界の捉え方でした。発達臨床心理学とはいえ心理学専攻である私にとっては、アメリカで生活をし、アメリカを肌で感じ、なおかつ色々な国の人と討論をし考え方を学ぶことが、とても興味深かったのです。そしてわたしが最終的に学んで帰ってきたものは『世界を舞台にどう生きていくか』の答えでした。

とにかく色々な人に出会い、色々なことに挑戦し、色々な分野を学び、この一年で自分の将来を見極めたいと目標を立てました。

結果として、一年間でとった授業は経営者を目指すクラス、カスタマーケアのクラス、グローバル企業でのリーダーシップについてのクラス、観光業のクラス、交渉学のクラスととても多岐に渡り、全てのクラスからその業界のおもしろさと、なおかつ、世界を股にかけるために共通している事項を学びました。

色々な国の人々がひとつのキャンパスで学んでいる環境で学んだことは本当に計り知れないも

のでした。様々なことを学びつつ、私がアメリカで出した結論は、『インターナショナルビジネスと心理学の狭間がおもしろい』ということでした。グローバルに色々な国で展開する企業や多国籍企業の多いこの時代において、ひとつの商品をそれぞれの国でどのように展開しその国の人の心を掴んでいくか、また、日系企業が他国に進出していくにあたり、現地でどのような人を雇うべきなのか、多国籍企業においてどのような被雇用者のケアが必要であるのか等、学び考えれば考えるほど、その内容はとても興味深くおもしろいものでした。

そうとわかれば次に考えなければならないことは、インターナショナルビジネスと心理学の狭間で生きていく方法です。アメリカで生活してもう一つ気が付いた重要なことは、西欧では大学での勉強が既に就職後のトレーニングを兼ねているということです。つまり、在学中に勉強したことを生かし就職し、即戦力になることを求められることが多いため、大学での専攻科目と就職先の仕事内容は通じていないと就職は難しいのです。

結論として、大学卒業後すぐに外国で希望の職につくのはとても難しいのです。そしてアメリカ留学への締めくくりとして、卒業後ヨーロッパのビジネススクールでインターナショナルビジネスの修士号をとることに決めました。私のアメリカ留学は、とても大きな夢を以て締めくくられました。